

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度第1回弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会
開 催 年 月 日	平成27年 8月19日 (水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	14時00分 から 17時30分まで
開 催 場 所	弘前市緑の相談所集会室および弘前城本丸発掘現場
議 長 等 の 氏 名	関根達人 (弘前大学人文学部教授)
出 席 者	金森安孝、上條信彦、柴正敏、福井敏隆
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 名 氏	(弘前市都市環境部公園緑地課) 公園緑地課長兼弘前城整備活用推進室長・古川勝、同課参事・小林勝、同課長補佐・小嶋修造、弘前城整備活用推進室兼スマートシティ推進室総括主幹・神雅昭、弘前城整備活用推進室総括主査・鶴巻秀樹、同室主査・横山幸男、同室主査・笹森康司、同室主事・今野沙貴子 (記録) (弘前市教育委員会文化財課) 文化財課長・三上敏彦、同課長補佐・工藤雅人、同課文化財保護係長・小石川透、同係主事・吹田昂平、同課埋蔵文化財係長・岩井浩介、同係主事・工藤麻衣
会 議 の 議 題	①平成27年度弘前城跡本丸石垣発掘調査の状況について ②弘前城跡本丸石垣発掘調査に係る自然科学分析について
会 議 結 果	① 発掘調査の結果、近代の石垣修理範囲は、天守台から北に約60m付近までと広範囲に及ぶことが判明した。今後、この調査結果と石垣の時期推定図の整合性をとる必要がある。 ② 12・13グリッドの境と、調査区北端の15・16グリッドに検出した「盛土②古」からは、現段階で17世紀以前の遺物のみが出土している。また、この盛土は近代以降の「盛土②中」や井戸枡周辺の掘り込みよりも古い。 ③ 平成26年度の弘前城本丸発掘調査で採取された粘土と、天守台表面に敷かれている玉砂利の分析・鑑定を進めている。現段階ではまだ中間報告ではあるが、両者ともに全体としての傾向は似通っており、出土層位・採取地点ごとの大きな違いは認められない。
会 議 資 料 の 名 称	① 平成27年度第1回弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会要旨 ② 図1 (石垣背面の盛土断面図)・図2 (盛土分布図と石垣立面図)・図3 (土層断面図) ③ 平成27年度弘前城本丸発掘調査石材サンプル一覧 (柴委員提供)

会議内容

( 発言者、  
発言内容、  
審議経過、  
結論等 )

① 平成27年度弘前城跡本丸石垣発掘調査の状況について  
(事務局)

- ・調査区北側を中心に、最大で地表面からの深さ約250cm地点(天端石から数えて下に6石目の上面)まで掘削した。その結果、A11グリッドのトレンチ底面から、近代以降のガラス瓶の破片や陶磁器が出土した。築石のような大型の石材も、同様に出土している。これらの遺物が出土した黒色土を、「盛土②中」と呼称している。
- ・調査区北側には、石積み観察において、元禄年間の石垣が天端石まで良好に残存していると判断されていた。しかし、天端から6石目の深さに相当する背面盛土から近代以降の遺物が出土したことにより、近代の石垣修理範囲は、当初の推定よりも広範囲に及ぶことが判明した。近代の石垣修理範囲は、天守台から北に約60m付近にまで及ぶ。
- ・「本丸井戸跡」とされる井戸枠のあった13・14グリッドにおいて、直径10mほどの円形の掘り込みを検出した。この掘り込み内の堆積土からは、近代以降の遺物が出土している。
- ・B12・13グリッドに、井戸枠周辺の掘り込みよりも新しい溝跡を検出した。
- ・12・13グリッドの境と、調査区北端の15・16グリッドには、「盛土②古」と名付けた土が良好に残っている。「盛土②古」は、「盛土②中」および井戸枠周辺の掘り込みよりも古い。現段階で、出土遺物の時期は17世紀以前に収まっている。
- ・15・16グリッドにおいて、「盛土②古」の下に粘土層を確認している。

(委員会)

- ・時期差があると思われる「盛土②中」と「盛土②古」の境界線を、平面図上で明確にすること。
- ・発掘調査で確認した盛土の状況と、石積みの整合性をとるよう。石積み観察で作成した石垣の時期推定図に、発掘調査の成果を反映させるということ。
- ・井戸枠周辺に検出した掘り込みの精査を進めること。この掘り込みと、「盛土②中」の新旧関係を把握することはできないか。
- ・B12・13グリッドの溝跡は、近世の溝をベースに造り替えられている可能性もある。
- ・近代に撮影された石垣の古写真について、未発見のものがな

	<p>いか再確認すること。また、古写真に写る石積みをトレースして、現状の石垣立面図と重ね合わせてみることにする。</p> <p>② 弘前城跡本丸石垣発掘調査に係る自然科学分析について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度の発掘調査委員会での指導に従い、本丸石垣発掘調査で採取した粘土と、天守台表面に敷かれた玉砂利の分析を、柴委員に依頼している。柴委員より、中間報告を頂く。</li> </ul> <p>(柴委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度の発掘調査で採取した土壌サンプルは、全部で14点ある。これらの分析を進めているが、全体的な傾向としてハロイサイト(カオリン鉱物)の含有を確認している。今後、粘土中に含まれるガラスの分析を進めれば、粘土の採取地が分かってくると思う。</li> <li>天守台の玉砂利のサンプルは、12地点で採取されている。これらについては、目視による観察を行った。全体的に礫の大きさがまとまっており、円磨度は亜円礫~円礫である。石質には複数の種類があるが、最も個体数の多いのは安山岩の礫である。その一方で、緑色凝灰岩の礫が特徴的に認められる。すべてのサンプル採取地点において礫の傾向が似通っていることから、天守台全面に、同時期に(一気に)玉砂利を敷き詰めている可能性が高いと思う。</li> </ul>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議の公開、非公開…公開</li> <li>傍聴者数…11名(東奥日報・陸奥新報・毎日新聞・読売新聞・NHK・青森朝日放送・青森テレビ・青森放送)</li> </ul>